

データ断絶防ぐ ■ 海外からでも参照

健診、ネット保存

NPO 今月末にも事業開始

健康診断の結果をインターネット経由の電子データで保存し、学校、就職、退職後と継続して健康管理に生かせる事業を、県内のNPO法人などが始める。翻訳機能を付け、海外でも使えるのが売りという。まずは前橋・高崎を中心に500人の参加者を募る。

事業は「群馬健康クラウド ネットワーク基盤構築」。県内で学会運営を手がけるNPO法人群馬コングレスサポートや高崎健康福祉大などが、総務省の補助金約1億円を得て実施する。

参加者の健康診断の結果をインターネット経由でデータセンターに「電子健康手帳」として保存し、必要なときにパスワードを入れて参照できるようにする。

これまでは、進学や転職などのたびに健康診断の結果が断絶してしまったが、この事業により、健康状態の変化を

長期にわたって管理できるようになる。

外国語の翻訳機能もつける。海外にいる時も、必要があれば現地の医師らがインターネット経由で参照できるようにする。

同NPOによると、群馬大で始まっている重粒子線によるがん治療にも、役立てられるという。これまで重粒子線

治療が患者に効くか判定する際、群大病院への入院が必要だったが、重粒子線センターと地域の病院がネット上で患者の健康情報をやりとりすれば、入院しなくても判定を受けられるようになる。

事業は前橋市と高崎市をモデル地域とし、両市の企業や大学を通じて500人程度の参加者を募って始める。募集は早ければ今月末からで、12月には健康手帳を登録できるようにする予定。

総務省の補助がなくなった後は、参加者が500～千円程度の会費を支払う形で事業を継続する予定という。